

参考資料3

〔 9月11日 第25回農業WG 〕  
〔 農林水産省 提出資料 〕

# 牛乳・乳製品をめぐる状況 (バターの需給と国内流通)

平成27年9月

農林水産省

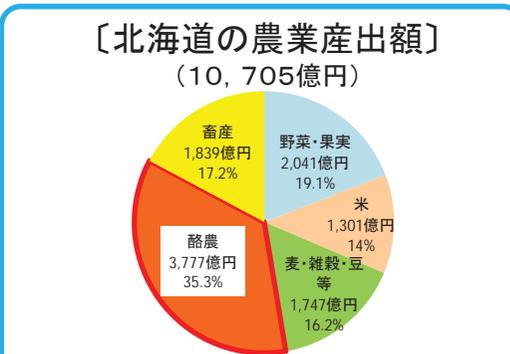
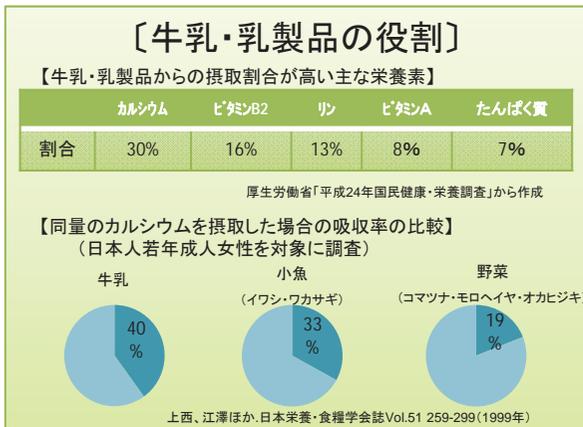
# 目次

<b>1 牛乳・乳製品をめぐる状況</b>	...	<b>2</b>
(1) 我が国における酪農・乳業	...	2
(2) 生乳及び牛乳・乳製品の流通	...	3
(3) 生乳需給における乳製品の役割	...	5
(4) 酪農を支える国内制度	...	6
(5) 指定団体の役割	...	7
(6) 指定団体と生乳販売	...	8
(7) 6次産業化・輸出促進のための酪農家の創意工夫に応える環境整備...		9
(8) 自由民主党 生乳流通・取引体制等検討WTのとりまとめの概要	...	10
<b>2 バターの需給と国内流通</b>	...	<b>13</b>
(1) 酪農と生乳生産の動向	...	13
(2) 生乳需給の推移	...	14
(3) 最近の生乳及びバターの需給動向	...	15
(4) バターの種類など	...	17
(5) バターの安定供給に向けた対応	...	18
生乳生産基盤の強化	...	18
追加輸入	...	19
メーカー等への働きかけ	...	22

# 1. 牛乳・乳製品をめぐる状況

## (1) 我が国における酪農・乳業

- 牛乳・乳製品は、カルシウム等の栄養素や吸収率に優れた食品であり、加工食品等の原材料としても幅広く利用。消費者や成長期の児童生徒、食品メーカー等へ合理的な価格で安定的に供給し、国民の食生活を支えることは、我が国酪農・乳業の最も重要な役割の一つ。
- 北海道において、酪農は、米や畑作物が育たない冷涼・広大な土地を活用できる主要な産業（農業産出額の約4割）。また、大消費地から遠く、生乳の輸送にコストがかかるため、保存が利く乳製品（脱脂粉乳、バター等）向け生乳の主たる供給地として発展。地域経済を支える重要産業として、大規模な乳製品工場が集中して立地。
- 都府県は、大消費地に近く、立地条件が有利なため、牛乳向け生乳の主たる供給地として発展。家畜伝染病等に関するリスク分散の観点からも、引き続き、全国各地で多様な生乳生産が行われることが重要。



農林水産省「生産農業所得統計」(H25年)

### 〔北海道の耕地面積〕

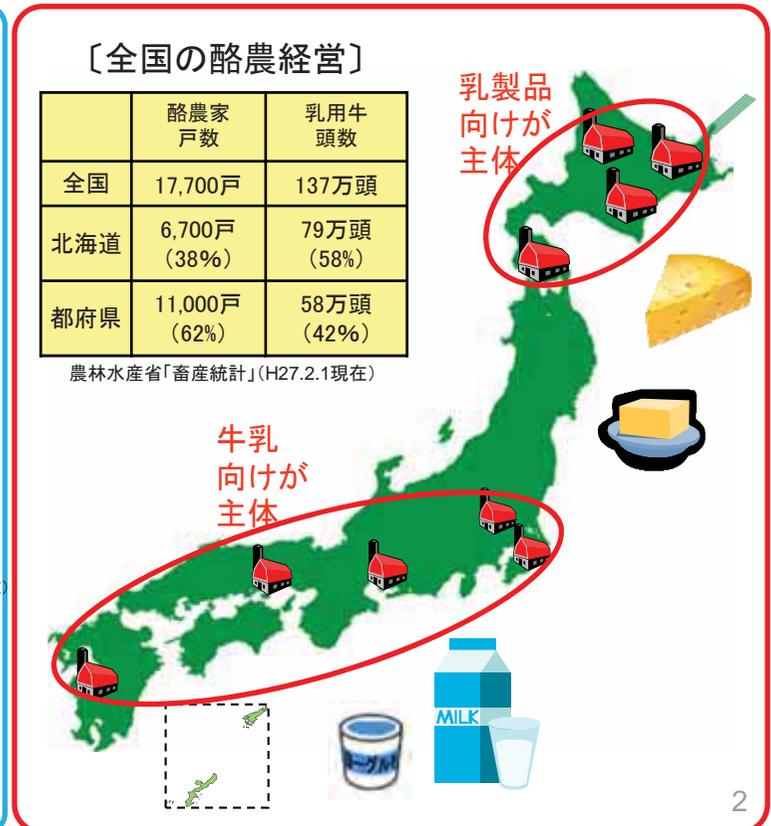
北海道の耕地面積	115万ha
うち酪農用の飼料面積	42万ha (36%)

農林水産省「耕地及び作付面積調査」(H26年)、「畜産統計」(H26.2.1現在)

### 〔大規模な乳製品工場数〕

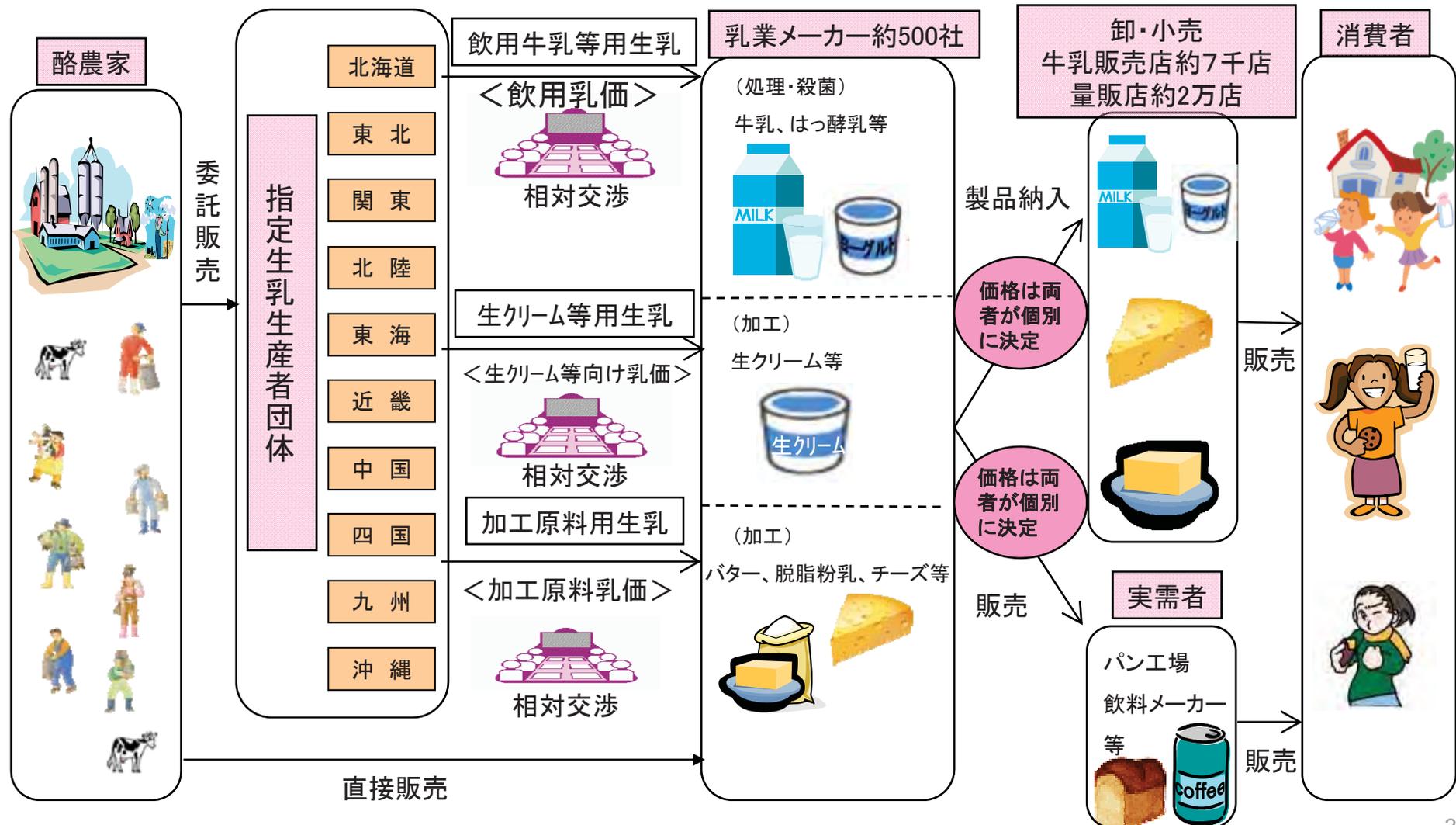
全国	30工場
うち北海道	21工場 (70%)

\* 処理量が40トン/日以上  
農林水産省「牛乳乳製品統計」(H26年)



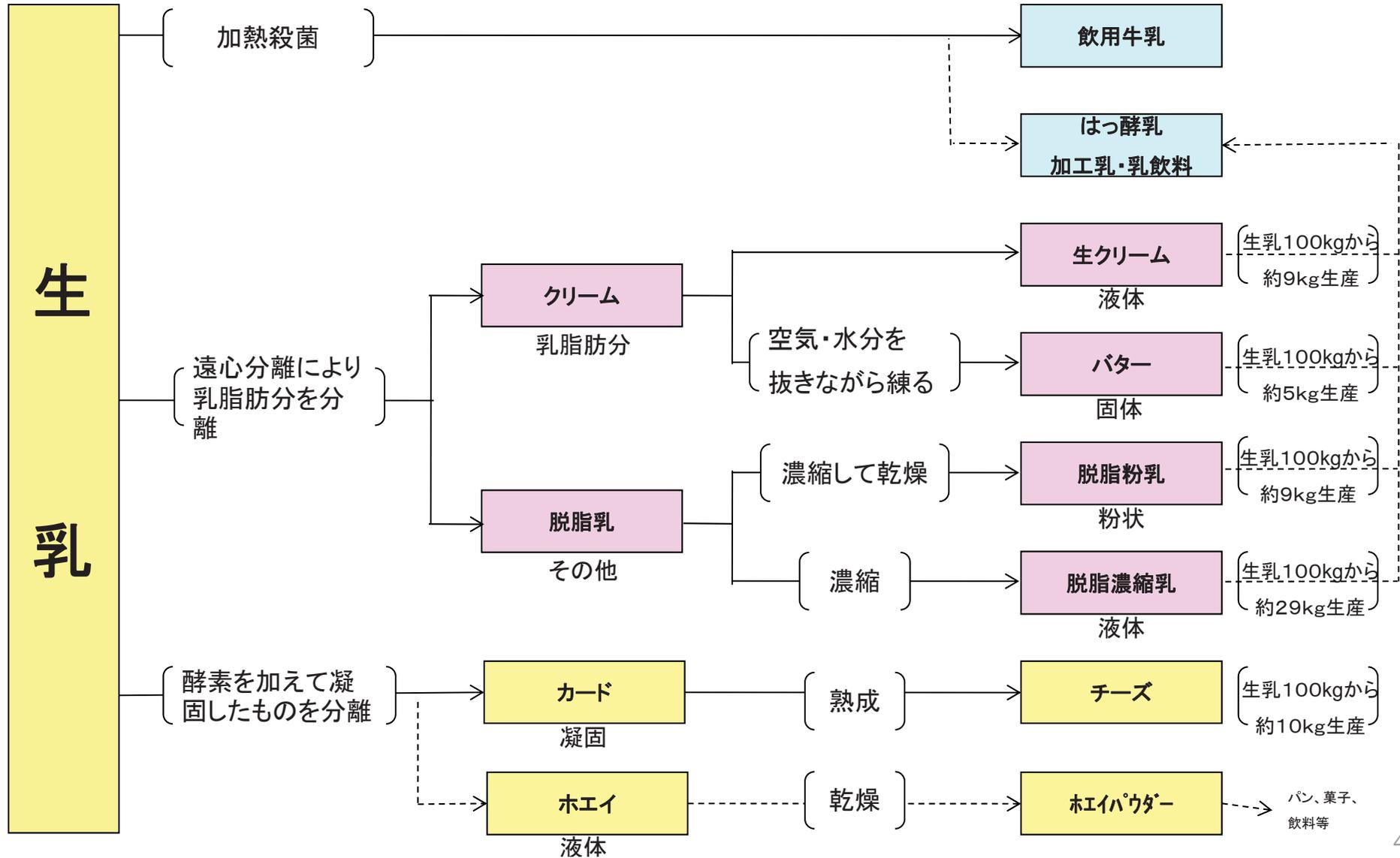
## (2) 生乳及び牛乳・乳製品の流通

○ 生乳は酪農家から主として指定団体等により集乳され、乳業メーカーに用途別に販売。乳業メーカーは、殺菌処理等を行い、飲用牛乳、はっ酵乳、チーズ等に加工した製品を、牛乳販売店や量販店等の卸・小売に販売し、小売から消費者へ販売。また、脱脂粉乳・バター等の乳製品は製菓製パン、飲料等の実需者に販売され、さらに加工されて消費者へ販売。



## (参考)牛乳・乳製品の製造工程

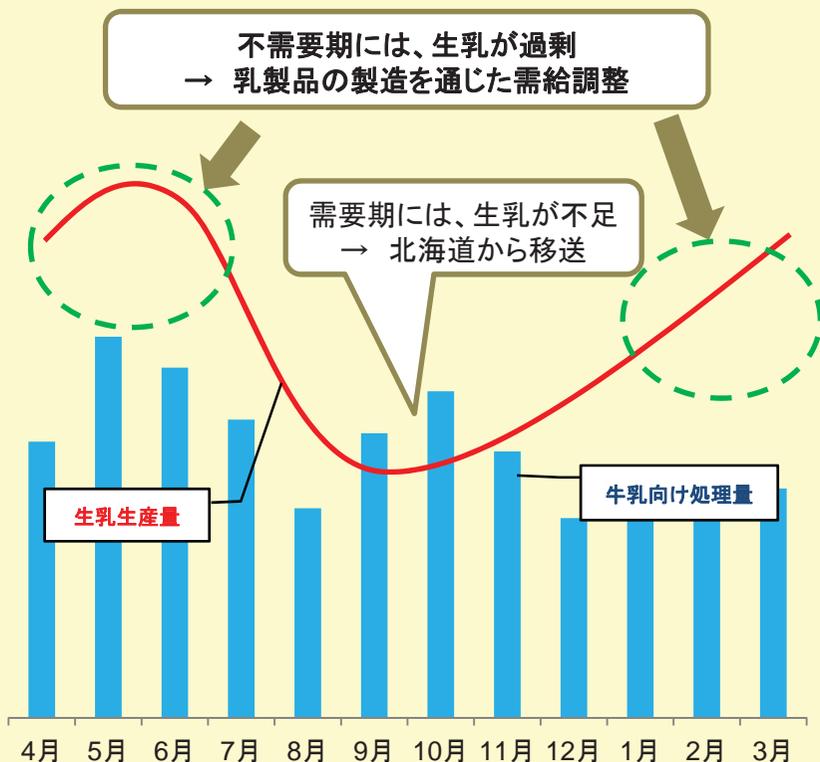
○ 生乳からは、加熱殺菌することで飲用牛乳が製造されるほか、遠心分離により乳脂肪分と無脂乳固形分に分離し、加工する等により多様な乳製品が製造。



### (3) 生乳需給における乳製品の役割

- 生乳の生産は、暑さで乳牛の体力が落ちる夏場は減少し、冬場には増加。一方、生乳の需要は、牛乳向けを中心に夏場は増加し、冬場には減少するという逆の動き。
- その結果、生乳については、必然的に冬場から春先にかけて過剰が発生するので、保存性が高い脱脂粉乳、バター等として製造(これがなければ、過剰となった生乳を大量に廃棄する必要)。
- このように、牛乳の製造だけでは生乳の需給が不安定になるため、季節的な生乳需給のアンバランス等を調整する需給調整弁としても、乳製品の製造は不可欠。

牛乳向けの生乳需給(都府県)

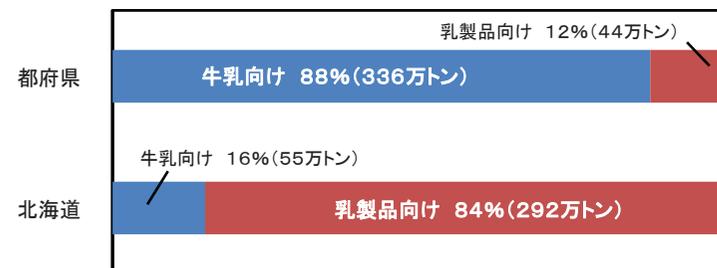


我が国の生乳生産量(平成26年度)

733 万トン

- 都府県 351万トン(48%)
- 北海道 382万トン(52%)

〔北海道と都府県における生乳の仕向け先〕



※北海道から都府県への生乳移出分等を含むため、生産量と処理量の合計は一致しない。

農林水産省「牛乳乳製品統計」

## (4) 酪農を支える国内制度

- 乳製品向けの生乳は、牛乳向けと異なり、乳製品に加工することで保存が利く一方、輸入品と競合し取引価格が生産コストを下回っているため、再生産が可能となるよう、一定の支援が必要。
- このため、乳製品向けの生乳を対象を絞って補給金(加工原料乳生産者補給金)を交付することで、全国的に生乳需給や酪農経営の安定を図っている。
- また、乳製品のうち脱脂粉乳、バター等は、内外価格差が大きく、品質面での差別化も困難なことなどから、輸入が無秩序に増えた場合、国内の需給や生産に悪影響を与えるおそれ。
- このため、国家貿易によって乳製品の種類、量、時期等を選択・調整した上で輸入することなどにより、国内需給等への影響を最小化。

26年度総供給量1,172万トン(生乳換算)

